

ISSN 0439-1713

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要

第 130 号

令和 5 年10月

Bulletin of the Faculty of Education
Hirosaki University

No. 130

October 2023

弘 前 大 学 教 育 学 部

Hirosaki, Japan

目 次

萩市立図書館所蔵の往来物資料について……………郡	千寿子 (1)
―目的別と出版地域別の分類整理―	
大学生時代の矢部貞治 (5) ……………大 谷 伸 治 (7)	
アニメーションを用いた民主主義教育の授業実践と効果検証……………蒔 田 純 (17)	
―日本と東ティモールの比較を通して―	
社会科教科書を活用する授業改善の視点……………池 田 泰 弘 (29)	
―教科書観と教科書の特性の分析を踏まえて―	
手漉きにより作製したりんご剪定枝由来紙の物性に関する研究……………八 島 光 勇 (39)	
―色差に及ぼす混合率の影響―	廣 瀬 孝
高齢女性にバリエーション豊かな衣服を……………安 川 あけみ (43)	
	関 琴 羽
小学校外国語科の話すこと (やり取り) の評価を左右する要因は何か……………佐 藤 剛 (51)	
	内 海 里 菜
	大 島 梨理香
	大 高 智 英
	北 向 周 平
	佐々木 駿 介
	中 村 尚 平
	畠 山 大 輝
コミュニケーション活動を通じた異文化理解……………佐 藤 陽奈子 (59)	
―小学校外国語科における検定教科書を比較して―	Anthony RAUSCH
高等学校におけるゴール型：バスケットボールの授業実践……………木 村 郷 (67)	
―運動有能感向上を目指した取り組み―	古 川 冬 真
	板 垣 侑 磨
	益 川 満 治
中学校体育授業における生徒の関係性づくり……………古 川 冬 真 (73)	
：快適な感情享受に着目して	益 川 満 治
A大学体育系部活動での Warm up・Cool down の実施状況 ……………鈴 木 真 保 (79)	
及びスポーツ傷害の現状と課題	葛 西 敦 子
「高校生用大人の支援に関する尺度」の作成 ……………藤 江 玲 子 (87)	
知的障害教育における単元づくりから学習評価までの……………菊 地 一 文 (95)	
プロセスにおける課題の検討	藤 川 雅 人
―促進要因と阻害要因等の把握及び児童生徒の学びの姿の 見取りに関するアプローチ―	

弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部 研究推進委員会 紀要編集担当

1. 本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 原則として各年度の10月及び3月の年2回 Web 版で発行する。
3. 原稿の締切は概ね7月下旬及び1月上旬とする。
4. 論文の著者には本学部または教職大学院の教員が含まれていなければならない。
5. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
6. 各論文の長さは図表等を含めて組上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
8. 掲載順序など、編集に関することは本委員会紀要編集担当が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
9. 原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が10ページを超える場合や図版の作製などに特別の経費を要する場合は、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷やCD-ROMを希望する場合は、投稿の際に必要な数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は電子化された論文を「弘前大学学術情報リポジトリ」にて公開する。

この規定は、令和2年11月から施行する。

弘前大学教育学部紀要執筆要領

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したUSBメモリ、CD-R等を添付すること。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
3. 本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当個所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入個所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真、楽譜含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則として一つずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるよう明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」と「原稿受領書」を添付し、本委員会紀要担当者に確認を受ける。

研究推進委員会 紀要編集担当

小 田 直 弥
新 川 広 樹
土 屋 陽 子
安 川 あけみ

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要
第130号
(2023年10月)

令和 5 年10月27日発行
編集兼発行者
弘 前 大 学 教 育 学 部
弘前市文京町 1 番地
電話 (0172) 36－ 2 1 1 1 (代)
印刷所 小 野 印 刷
弘前市富田町52
電話 (0172) 32－ 7 4 7 1 (代)

CONTENTS

Investigation report on “OURAIMONO” documents of Hagi City Library possession: A study based on the publication place and the purposeful classification analysis	Chizuko KOHRI (1)
A Basic Study on Teiji Yabe's student days at Tokyo Imperial University (5)	Shinji OHTANI (7)
An Effect of Democracy Education Using a Cartoon Video: a comparative study between Japan and Timor-Leste	Jun MAKITA (17)
Perspectives for Class Improvement Using Social Studies Textbooks Based on the View of Textbook and Analysis of Textbook Characteristics	Yasuhiro IKEDA (29)
Properties of hand-made paper from different rate apple pruned branches pulp Effect of mixing ratio on color difference	Mitsutoshi YASHIMA (39) Takashi HIROSE
Various clothes for elderly women	Akemi YASUKAWA (43) Kotoha SEKI
What Factors Influence the Assessment of Speaking Interactions in Elementary School Foreign Language Education?	Tsuyoshi SATO (51) Rina UTSUMI Ririka OSHIMA Tomohide OTAKA Shuhei KITAMUKI Shunsuke SASAKI Shohei NAKAMURA Taiki HATAKEYAMA
Intercultural Understanding through Communication Activities: Comparing Authorized Textbooks for Japanese Elementary School EFL	Hinako SATO (59) Anthony RAUSCH
Goal Type :Basketball lesson practice in high school Initiatives aimed at improving physical competence	Go KIMURA (67) Toma KOGAWA Yuma ITAGAKI Mitsuharu MASUKAWA
Building Enhance Student Relationships in Junior High School Physical Education Classes: Focusing on the Enjoyment of Pleasant Feelings	Toma KOGAWA (73) Mitsuharu MASUKAWA
The Current State and Problems of implementation of Warm up, Cool down and Sports Injury in A-College Athletic Clubs	Maho SUZUKI (79) Atsuko KASAI
Development of the “Scale of Supportive Involvement from Adults for Senior High School Students”.	Reiko FUJIE (87)
Examination of issues in the process from unit creation to learning evaluation in education for intellectual disabilities Approaches to understanding promoting factors and inhibiting factors, and observing students' learning progress	Kazufumi KIKUCHI (95) Masahito FUJIKAWA